



沈殿池。1日8,500m³の原水を処理できる。



配水池に送水するポンプ



水道管理システムで水質や水量を管理



最上川中部水道企業団の薬品注入室

最上川中部水道企業団 浄水場の処理工程

- 1 **凝集**
くみ上げた川の水に、ポリ塩化アルミニウム、苛性ソーダなどの薬品を注入し、泥やちりなどをかたまりにする。
- 2 **沈殿**
沈殿池で泥やちりのかたまりを沈める。
- 3 **塩素注入**
次亜塩素を加えて消毒する。
- 4 **ろ過**
わずかに残った小さな浮遊物などを取り除く。

— 水源から家庭まで。その舞台裏 —

きれいな水が届くまで

同じ中山町内であっても、地区によって水源や水質管理を行っている施設が異なります。

中山町には、最上川中部水道企業団（以下、「企業団」と表記）、土橋簡易水道、柳沢簡易水道の3つの水道施設があり、それぞれの水源から水をくみ上げています。くみ上げた水は、そのまま皆さんの家庭へ送られるのではなく、必要な浄水処理が施され、安心して飲むことのできる水になってから皆さんの元に届きます。（各水道施設の概要、給水エリアについては、次ページ「中山町の水道施設の概要」をご覧ください。）

町内ほとんどの地区には 企業団&村広水の水が届く

町内ほとんどのエリアに給水されているのは、企業団が管理する水道水。最上川から取水され、上記のような浄水処理が行われます。毎日の塩素濃度測定等のほか、定期的な水質検査も実施されており、水道法に定められた水質基準に適合した安全な水であることが保障されています。こうしてきれいになった水は、一度、土橋にある配水池（水を貯めておく水槽）に送水されます。土地の高低差を利用して各家庭に配水するためです。配水池には村広水からの水も送られてきており、ここで合流し、水道管を通じて各家庭に届けられます。

配水池の状況は 管理システムで常時監視

配水池の状況は、企業団に設置されている水道管理システムによって常に監視されています。水量や塩素の濃度などをパソコンの画面で確認することができるので、異常があったときには、早急に対応することができます。

土橋・柳沢地区では 簡易水道が普及

一方、土橋と柳沢では、それぞれの地区で組織された「簡易水道組合」が水質や水量の管理を行っています。この2地区については企業団の水道事業の管轄外で、それぞれ集落の近くに独自の水源を確保。土橋・柳沢ともに地中から湧き出る湧き水を利用しています。山の恵みとも言える湧水は、比較的不純物が少ないため、土橋ではろ過と塩素消毒、柳沢では塩素消毒のみで浄水処理が完了し、配水池を経由して各家庭に配水されます。

なお、「簡易水道」とは、法律の分類上、給水人口（水をお届けする人数）が5000人までの小規模な水道を言います。「簡易」と言っても、浄水設備が簡単というわけではなく、安心しておいしい水を飲むことができます。

◆中山町の水道施設の概要（平成24年4月1日現在）

	給水人口	1日平均 給水量（計画）	1日最大 給水量（計画）	水 源	給水エリア
最上川中部 水道企業団	（人） 10,719	（m ³ ） 4,784	（m ³ ） 7,036	最上川表流水	長崎、あおば、いずみ、達磨寺、 向新田、小塩、金沢、岡
土橋簡易水道	600	200	250	湧水	土橋
柳沢簡易水道	968	350	450	湧水	柳沢

資料提供：最上川中部水道企業団、土橋・柳沢簡易水道組合

水道豆知識 中山町で初めての水道は土橋簡易水道



土橋簡易水道組合
組合長 高橋 剛さん

中山町で最も歴史のある水道施設は、土橋の簡易水道。今から88年前の大正14年に完成しました。以来、現在に至るまで土橋地区の人々の生活を支えています。この歴史ある水道を管理しているのは、地区から選出された「土橋簡易水道組合」の皆さん。施設の清掃から水質の管理に至るまで、全て土橋簡易水道組合で行っています。組合長の高橋さんは「土橋の水道水のもとになっている水は、山々に降った雨や雪がしみ込み、土によって不純物が取り除かれた良質な水です。1日あたり300t取水でき、これまで水が不足したことはありません。これからも、先人が残してくれた財産を大切に、地区の皆さんがいつでも安全でおいしい水を飲めるよう、安定した水道水の供給を目指します」と話してくださいました。